



統計スポット情報

No. 77

15.8.29 福井県総務部情報政策課

知ってる？景気動向指数

景気の動向を表わす指標はいろいろ発表されていますが、今回は景気動向指数(DI= Diffusion Indexes)について説明します。

経済は生産、在庫、収益、労働、消費、金融、貿易等々といった多様な活動から成り立っています。それらの統計指標を一つ一つ見ていくのは大切なことですが、ちょっと大変ですね。景気動向指数は、各々の経済活動指標の変化方向を合成することによって、景気の局面を把握する総合的な景気指標です。

内閣府が毎月6日前後に速報を発表しています。県でも、毎月20日頃に福井県版の景気動向指数を発表しています。

景気動向指数には、現在の景気に対してほぼ一致して動く経済指標を集めた一致系列、景気に先行して動く先行系列、景気に遅れて動く遅行系列の3系列があります。景気動向指数の記事が新聞紙面に掲載される時は「内閣府が 日発表した4月の景気動向指数は景気の現状を示す一致指数が72.7%となった。判断の分かれ目となる50%を2ヵ月連続で上回った」といった書き出しで始まります。この指数の計算方法が実はとても単純です。仮に先ほどの4月の一致指数72.7%を例にすると、

採用されている各指標の4月の数値を3ヵ月前の1月の数値と比べ上回ればプラス、下回ればマイナスとします。(なぜ3ヵ月前と比較するかというと、月々の不規則な動きの影響をできるだけ取り除くため3ヵ月平均値を利用するのです。)

プラスとなった指標の数が全体に占める割合を%で表します。(国の場合、一致指数の指標が11個ありますから、この例ではそのうち8指標がプラスになったので $8 \div 11 = 72.7\%$ になります。)判断の分かれ目となる50%を上回るとは、指標の過半数が3ヵ月前よりプラスになった状態です。

景気動向指数は、ある指標がほんのわずかに上昇しても、逆に倍以上になったとしても、その指標がプラスになったということしか示しません。つまり、景気動向指数は景気の変化方向を示すだけで景気回復(後退)の大きさを表すことが出来ません。

一般的には、一致系列が連続して何ヵ月も50%を超えるようだと景気は拡張局面にあり、逆に、連続して50%を下回るようだと景気は収縮局面にあると言われていています。ただし、現在のような低成長時には、動きが不安定になるという意見もあります。

景気循環の局面

